

WCHS, APHS 2024 in Singapore 報告書

東京医科歯科大学肝胆膵外科 小山照央

シンガポールで開催された WCHS, APHS 2024 に参加させて頂きました。

日本はだんだんと涼しくなってきた時分でしたが、10月のシンガポールはまだまだ猛暑でした。そんな猛暑を打ち消すように、巨大ショッピングモールに併設された学会会場は、強烈なエアコンで冷え冷えとしていましたが、やはりいざ発表やレクチャーが始まると会場は熱気を帯びました。

私にとって初めての国際学会への参加で、自身の発表もさることながら、Dr. Yuri Novitsky や、Dr. Eduardo Tanaka など、論文の中でしか出会うことのなかった高名な先生方を目の前にして講演を聴講することができたことは夢のようでした。

自分自身の発表に関しては、事前に不安に感じていたよりは落ち着いて終えることができ安堵しました。国内学会において英語によるスライド作成、発表などの経験があったことが役立ったと思います。また、日本から参加された先生方も想像より多く、大変心強かったです。

むしろ、当日を迎えるまでの手続きには、戸惑うことが少なくなかったです。例えば、「演題のオンラインアップロードがきちんと完了したのかどうか確認できない」、「演題は採択されたものの会期が近づくまで採択カテゴリーが通知されない（したがって、発表形式や割当時間が分からず直前までプレゼン準備が進まない）」など、国内の学会ではなかなか感じることもない不安を覚えながらの準備となりました。その都度メールで問い合わせると、すぐにはいえませんが、数日おいて学会スタッフから返信が届いたので、そのたびに対応することはできました。

オンラインコミュニティの拡大により海外の講演や手術動画などもネット上で視聴できるようになった現代において、決して少ないとは言えない時間やお金をかけて国際学会に出かけていくという選択に一寸の迷いも無かった訳ではありません。しかしながら、実際に参加して感じた大きな意義は、そこに集まる「ヒト」でした。「国や文化は違えども、同じ課題に立ち向かっている同志が海の向こうにも沢山いるのだ」という仲間意識とも言える感覚を肌で感じることができ、大変貴重な機会でした。

最後に、このたびの学会参加をサポートして下さいました「APHS scholarship」に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

